



みゆき

小松市立御幸中学校

学校だより

NO. 19

令和2年11月5日

文責：校長 河南光昭

Be as one

10月30日に行われた「御幸祭」。コロナ禍での開催ということで、例年のような華やかさはもちろんだと感じました。しかし、前後期の生徒会執行部が中心となって企画し、また、生徒一人ひとりが一役を担って行われた「御幸祭」は、それこそ一人ひとりの思いが詰まった、手づくりのイベントになったように思います。右の写真のモニュメントの側面には、生徒一人ひとりが記した御幸祭への思いがイチョウやモミジとなって散りばめられています。「楽しみたい」「感動させたい」という願いのために、「自分の仕事をしっかりやる」「役割を果たす」という思いが刻まれています。

午前中はいろいろな出し物が披露されましたが、中でもピアノ独奏やドラム演奏などは普段の練習の成果とパッションが感じられて、自然と魅入られてしまいました。また、3年生女子によるダンスも、今流行りのKポップ系のダンスでとても会場を湧き立たせてくれました。保健委員会の発表は、今から冬に向かってさらに気を付けたいコロナ・インフルエンザ・ノロウイルスへの予防対策をうたうもので時宜を得ていたと思います。意見文発表、英語発表は「なるほど」と考えさせられたり、うなづかせてくれたりしました。発表者の堂々とした態度も大変立派だったと思います。他にも歌唱や中学生サミットの発表がありましたが、ステージに上がるまでには幾度の打合せと繰り返しの練習があったのだろうと感じさせられました。

午後は、8つの企画をワークショップ形式で回る時間と



となりました。どのコーナーも工夫を凝らして、楽しんでもらおう、喜んでもらおうという思いが伝わってくる催し物で、そこかしこでこのコロナ禍のうっ憤を吹き飛ばすような笑顔があふれていました。最後の生徒会長の挨拶にもありましたが、大成功の一日になったと思います。

